

第1回 テーマ：「シビンタに出会おう！自然観察会」

8月19日（土）、今年度第1回目の山都塾が「シビンタに出会おう！自然観察会」をテーマに開催されました。

講師に、矢部郷自然観察会代表の藤吉勇治さん、また九州大学大学院農学研究院の鬼倉徳雄准教授などを迎え、白糸第一自治振興会や通潤地区土地改良区の皆さんにもお世話になりました。小中高生から大人まで、50名以上が参加しました。

午後1時から、千寿苑にて山都塾の「平成29年度開講式」が行われ、塾長である梅田町長より「将来を担う皆さんに、山都町の歴史や文化、自然など、

町の魅力をしっかりと知ってもらい、夢を抱き未来へ向かって活躍する人になってほしい。」という励ましのエールが送られました。



通潤用水を観察中の参加者

その後、白糸台地の新小地区にある通潤用水に入って生き物探しを始めました。ドンコ、ドジョウ、大きなカワムツという魚の仲間や、ミズカマキリなどが見つかると、また絶滅危惧種のクロゲンゴロウやシマゲンゴロウなど、珍しい昆虫たちも見つかりました。稚ガニをお腹にたくさん抱えた子育て中のサワガニの珍しい姿は注目を集めました。テーマである「シビンタ」がなかなか見つからない中、鬼倉准教授が1cm位の稚魚を見つけれ、通潤用水での生息を確かめる事ができました。

参加者のアンケートからは、「見たこともない生き物ばかりで、新しい生き物を見つけるのがとても楽しかった。」などの声があり、生き物たちとの出会いから、山都町の豊かな自然環境の素晴らしさを、改めて体感した一日となりました。



参加者のみなさん



藤吉代表の説明を受ける子ども達

第2回 テーマ：「通潤橋の今 ～160年の時を刻んで～」

9月9日（土）午後2時から、第2回山都塾「通潤橋の今 ～160年の時を刻んで～」が開かれました。講師として、山都町教育委員会の学芸員である西慶喜さん、大津山恭子さん、そして修復現場では、通潤橋史料館長である石山信次郎さんにもお話を伺いました。小中高生から大人までの80名が参加し、あらゆる角度から、山都町の復興のシンボルとも言われる通潤橋について学びました。



まず千寿苑にて、国指定重要文化財である通潤橋の仕組みや歴史、役割や特徴について改めて西学芸員が興味深く分かりやすく講義し、実際に通潤橋の修復現場へ見学に出かけました。

被災修復作業中の現在、17年ぶりに内部の仕組みを観ることができる状況となっています。その現場で山都塾として特別に、今だから観ることができる、今だから聞くことのできるお話を聞くことができました。

アンケートの中には「自分が思った以上に、構造が工夫されていて驚きました。実際に橋を渡ってみて、使われている石の数や漆喰の作り方などについても学びました。」といった感想がありました。座学や現場での見学を通して、通潤橋が建設された江戸時代当時、約160年前の数々の知恵や技に学ぶ貴重な機会となりました。



通潤橋の上で通水管の説明を受ける子ども達



17年ぶりに姿を現した3列の通水管の全貌